



ビジネスの視点で分析する

特徴

将来性

課題

地域づくりに欠かせない存在 ワーカース・コレクティブ

2016 年度で 30 周年を迎えた北海道のワーカース・コレクティブ。地域の課題を解決するサービスを事業化し市民事業としての領域を広げ、同時に地域の中に働く場も築いてきました。また、人と人がつながり合いたすけあう仕組みを広げ、協同で働くことの意義を知らせることを実践してきました。未来に向けてワーカース・コレクティブとしてどのように継続していけばよいのか。今回は北海学園大学経営学部 菅原浩信教授に課題と展望を分析してもらい、講義形式で紹介します。



北海学園大学経営学部教授

菅原 浩信さん

専門分野は非営利組織論、公共経営論。2008 年からワーカース・コレクティブについての調査研究を進めている。現在の関心はコミュニティ・カフェ。

1 講目

ワーカースって、 実際、どうなんですか？

ワーカース・コレクティブ（以下、ワーカース）は、地域にとって必要なサービス（とりわけ、食、たすけあい、子育て支援）を提供するだけでなく、近年では札幌近郊の各市に事業エリアを拡大している。一方で、商店街・学校・町内会などとの連携による様々な取り組み、居場所・サロンなど地域の交流拠点の運営などにより、地域にとって欠かせない存在になりつつある。

また、北海道ワーカース・コレクティブ連絡協議会に加入する 32 団体の事業高の合計は約 7.5 億円（2015 年度）となっている。実は、この事業高は、札幌証券取引所（アンビシャス市場）に上場している会社（㈱エコミック）の売上高（約 9.0 億円（2015 年度））に近いレベルであるともいえる。もちろん、業種等の違いがあるので単純に比較するわけにはいかないが、このことからワーカースの存在は大きいものがある。

さらに、地域にある子育て支援のワーカースが対応できない事業には、(N) 北海道子育て支援ワーカースがその受け皿となっていたり、近隣の地域ごとに組織されている地域会や、主として同じ業種ごとに組織されている部会のメンバーであるワーカース同士の連携・協働により、ワーカース全体としてみると、実に幅広い多様なサービスが提供されている。

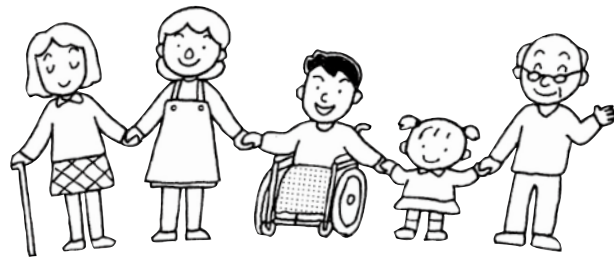
2 講目

時代や環境によって 変化してゆく ワーカースの在り方

景気の低迷や低価格志向の強まり、ニーズの多様化・複雑化、人口減少・少子高齢化…といったことを背景として、あらゆる市場において競争が激化している。これまでワーカースは競争ということをそれほど意識してこなかった。しかし、これからは、自分たちと同じ地域で同じようなサービスを提供している NPO 法人、企業、行政、公的機関、ボランティアグループ…といった様々な組織・団体を競争相手として意識していかなければならない。

また、最近では、配偶者控除の見直しをめぐる議論が行われている。今後、もし配偶者控除の見直しが行われ、いわゆる「103 万円の壁」を考慮する必要がなくなるのであれば、それぞれの事情に応じて、ある程度自由な働き方が可能となる。したがって、ワーカースのメンバーは、これからの自分の働き方をどうすべきなのか考えなければならない。一方、将来的にはワーカースで働くことにより生計を立てていこうとするメンバーが出現してくる。中・長期的に考えれば、学生の就職の受け皿になる可能性もある（大学の教員としては、ぜひともそうなっていただきたいところであるが…）。

さらに、介護保険制度の見直しの 1 つとして、2017 年度末までに、市町村による「介護予防・日常生活支援総合事業」が新設されることになっている。この中の生活支援・介護予防サービス（例えば、交流サロン・コミュニティカフェ、配食・見守り、家事援助、食材配達、移動販売など）については、民間企業、NPO、協同組合、社会福祉法人、ボランティアといった多様な事業主体により提供されることが求められている。つまり、たすけあい分野を中心に、様々な分野のワーカースが今、大きなビジネスチャンスを迎えつつある。一方、今後 2025 年をメドとして、地域包括ケアシステムの構築が目指されている。そこでは認知症の人々を支えるために、「自助」「互助」の最大限の活用が必要とされ、地域コミュニティの多様な主体・機関の連携が求められている。ワーカースは地域にとって必要なサービスを今後も提供し続けるために、そうした多様な主体・機関との連携が求められる。



3 講目

これからすべきことは？

事業体として脱皮する

積極的に事業展開を進める

- ☐ 様々な競争相手を意識し、対抗策を講じる。
- ☐ こだわりは自分たちと競争相手を差別化するのに必要だが、こだわりと顧客ニーズの折り合いをどこかでつけないといけない。
- ☐ 担い手として、フルタイムで働ける人材の確保が必要。

運動体として継続する

地域に必要なサービスを
提供し続けるための枠組みづくりを進める

- ☐ 地域における様々な組織・団体との連携を、これまで以上に積極的に進めていく。
- ☐ 地域会の存在が重要。それぞれが持つネットワークを活用することで、様々な組織・団体との連携・協働をさらに広げていくことが可能になる。地域の課題を地域で解決するための枠組みの構築につながっていく。

4 講目

ズバリ！これがワーカースの課題！！

認知度が低い！

ワーカースを知っている人は残念ながら少数派。「知る人ぞ知る」のままで、積極的な事業展開や地域での枠組みづくりを図ろうとしても、なかなかうまくいかない。

いろいろな機会をとらえて認知度の向上を図っていくことが求められる。メディアとの付き合い方も重要。

ほぼ同じメンバーのままで、一体感がある反面、活動のマンネリ化、組織の硬直化が進み、積極的な事業展開も、地域での枠組みづくりも難しくなる。

メンバーの 高齢化・固定化！

若い世代や男性に加えて、雇用弱者とされるニート、フリーター、シングルマザーなど多様なバックグラウンドを持つメンバーを確保していくことが求められる。

意思決定が遅い！

メンバー全員での意思決定は丁寧で納得が得られやすいが、ビジネスチャンスを逃してしまう危険性も持っており、積極的な事業展開を図っていく上での大きな障害となりうる。

納得性（公平性）を確保しながら、いかに迅速な意思決定を行うか、そのための工夫が必要。例えば各種委員会活動や提案制度などの組織運営に関わる機会を設け、普段からメンバーに組織運営に対する理解を深めてもらうことなどが考えられる。